

日々の業務に「埋没」する「見えないムダ・ロス」のを見つけ方・潰し方

ビギナー向け IE活用入門講座

原価低減に欠かせない

『人・機械・ものの状態や働きに対する見方・考え方』を学ぶ

日時 2020年4月14日(火) 10:00~17:00
(9:30 受付開始、休憩 12:30~13:30)

主催 **日刊工業新聞社**

会場 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム
東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

44,000円 (資料含む、消費税込)
 * 同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円
 ※ 後日、別の方が追加で申込をされる際は、備考欄に先に申し込まれた方のお名前と複数割適用希望と記載ください。
 (記載が無い場合は通常料金をご請求となります。予めご了承ください)



※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム

東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

【アクセス】

東京メトロ日比谷線『人形町駅』A2出口 徒歩3分、都営浅草線『人形町駅』A6出口 徒歩3分
東京メトロ半蔵門線『水天宮前駅』8番出口 徒歩4分

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。講座によりましては、申込者が最少催行人数に達していない場合、開催決定まで受講票ならびに請求書の発送を見合わせて頂く場合がございます。

なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
(株)日刊工業新聞社	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 総合事業局 教育事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail: j-seminar@media.nikkan.co.jp

受
申
込

講
書

4/14 IE活用入門

お申し込みは FAX 03-5644-7215

■受講料：44,000円（資料含む、消費税込）※同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円

※振込手数料は貴社にてご負担ください。

会社名	フリガナ		業 種	
氏 名	フリガナ	部署・役職	TEL	
所在地	〒		FAX	
備考			E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は ☐ チェックをしてください。

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

個人情報取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。

なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansco.jp

No.200033

開催主旨

日々の生産活動の中で、「ムダ」や「ロス」は発生し続けていますが、その多くは、気づかれず「埋没」しております。どんなにマニュアルやチェックシートを強化しようと、どんなに優秀な工場長・部門長であろうと、日々の生産活動に埋没するムダやロスを全てを見つけることは不可能です。生産活動に携わる製造スタッフの『人・機械・ものの状態や働きに対する見方・考え方』を底上げし、全員の目で「ムダ」「ロス」を発見、潰していく全員参画型のカイゼン活動以外に有効な手段はありません。

本セミナーでは「ムダ」「ロス」を見つけるために欠かせない見方・考え方として、IE（インダストリアル・エンジニアリング）の実践的な活用法を解説いたします。IEを初めて学ぶ方、知ってはいるが活用できていない方のために、IEの基本的な内容から実際の原価低減活動や日常の現場管理にIEをどのように活かし、成果の創出や現場のモチベーションアップにつなげるかを事例や演習を多く用いて紹介します。

今後更に進むデジタル化（IoT、AI、スマート工場等）の導入時、その費用対効果を最大限導き出すためにも、基本設計や運用段階において欠かせないのは「人の能力」であり、IEによる「ものの見方・考え方」があります。原価低減活動の活性化や今後のデジタル化に向けた現場の底上げのきっかけ作りとして、お勧めのセミナーです。

【想定する受講対象者】

- ・製造スタッフ
- ・職場の改善や人材の育成を率先して実施する立場の方

講師

経営維新コンサルティング株式会社 代表取締役 **内山 三朗 氏**

【略歴】 1999年 大手総合化学メーカー入社後、社内の原価低減やリードタイム短縮といった改善を推進。
2003年 独立系コンサルティングファームに入社。コンサルタントに転身し、製造業を中心に収益改善や人材育成など、100社以上の支援を実施。
2017年 経営維新コンサルティング(株)を設立。指示的なコンサルティング技術に加え、来談者中心療法や認知行動療法といった非指示的なカウンセリング技術を融合させ、人の意識・行動改革を起点に企業の業績改善を行う独自の支援プログラムを提供している。

プログラム

1. IE手法を活用した実態の捉え方

- 1) 工場・職場の全体像を把握する方法
ー工程分析ー
・オペレーション・プロセスチャート
・フロー・プロセスチャート
◆演習：プロセスチャートによる工程の流れの可視化
◆事例：プロセスにおけるムダ・ロスの抽出方法
- 2) 工場・職場全体の人・設備の稼働・非稼働状態を短時間で把握する方法
ー稼働分析ー
・連続観測法 ・瞬間観測法
◆演習：瞬間観測法による稼働状態の可視化
◆事例：非稼働時間の削減
- 3) 最も優先して改善すべきところを見出す方法
ーラインバランス分析ー
・ピッチダイアグラム
◆演習：ライン編成の評価
◆事例：ライン生産能力向上、ライン効率向上
- 4) 人と設備や複数の人を効率良く組合せ稼働させる方法
ー連合作業分析ー
・人ー機械作業分析 ・組作業分析
◆演習：人・機械の最適な稼働のさせ方
◆事例：加工費の削減
- 5) 標準時間の設定方法
ー時間研究・動作分析・レイティングー

- ・時間観測法 ・微動作分析 ・レイティング
- ◆演習：作業スピードの評価、作業の習熟度評価
- ◆事例：製造現場に受け入れられる基準作り

2. IE手法のものの見方・考え方を身に着ける目的

- 1) 製造原価の構成と原価低減の方向性
- 2) 原価低減活動で期待する成果が出ない原因
- 3) 確実に成果を出すためにIEを活用する利点

3. 実践でのIE手法の活用事例

- 1) 原価低減につながる系統立てた改善の進め方
ー場面に応じた各種IE手法の使い分けー
◆事例：ライン生産の職場での改善事例
- 2) 日々現場で埋没しているロスの削減方法
ーIEで分析したデータの活かし方ー
◆事例：出来高と納期しか意識できていなかった生産職場での改善事例
- 3) 原価低減にも影響するモチベーションアップのためのしかけ作り
ーIEで分類した付加価値作業の数値化ー
◆事例：標準設定や生産性指標設定が難しい一品一葉生産職場での改善事例
- 4) 新人作業者の早期立ち上げの進め方
ーIEで分析したデータの活かし方ー
◆事例：育成期間・時間の試算方法やその縮め方